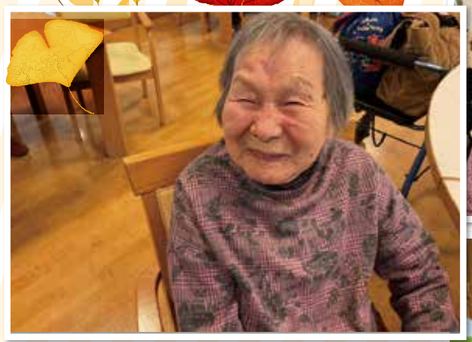
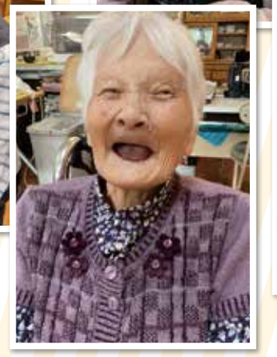
月刊 笑

Vol.32
2026.11.25












Topics

祝・永年勤続表彰！
ベテラン職員が語る職場の魅力

「特別養護老人ホーム悠優かしま」ってどんなところ？
自宅での生活の延長を目指す支援

「デイサービスセンター悠優かしま」ってどんなところ？
利用者様の「もう一つの家」を目指す支援

「コミュニティハウス悠優かしま」ってどんなところ？
職種を超えたチームワークで支える日々のケア

「悠優かしま居宅介護支援事業所」ってどんなところ？
一人ひとりの思いに伴走し、在宅生活の安心を支える支援

「悠優かしま 居宅介護支援事業所」ってどんなところ？

在宅生活を支えるケアマネジャーが一人ひとりの思いに丁寧に耳を傾け、最善のケアを伴走型で提案している「悠優かしま居宅介護支援事業所」。困難な課題に対しても相手に寄り添う姿勢で解決へと導き、安心した暮らしを支える魅力と取り組みをご紹介します！

一人ひとりの思いに伴走し、
在宅生活の安心を支える支援



「悠優かしま居宅介護支援事業所」の強みと支援環境

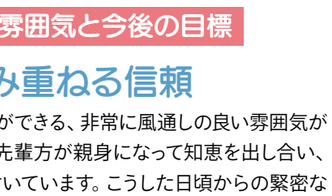
知識豊富なベテランによる手厚い支援体制

長年にわたり、介護現場や様々な分野で多様な経験を積んできた、ベテランの介護支援専門員が多く在籍しています。豊富な知識と専門性を備えたスタッフが揃っているため、複雑な課題に対しても色々な視点からアプローチすることが可能。また、他機関とのネットワークやパイプも強固であり、困りごとが生じた際にも迅速かつ適切な連携を図ることができます。さらに、職員一人ひとりにＰＣやスマホなどのＩＴ設備が整備されており、業務に集中できる安定した職場環境が整っていることも、利用者様へのより良い支援に繋がっています。

日々の業務における工夫

相手の立場に立ったわかりやすい言葉選び

日々の業務においては、利用者様やご家族様に安心していただける丁寧な対話を大切にしています。特に説明やご相談の場面では、相手の認知状況や心理状態に配慮し、複雑な情報を要約してシンプルに伝えるなど、負担にならないコミュニケーションを意識。また、真摯にお話を伺う傾聴の姿勢を徹底し、しっかりと目を見て頷くことで、潜在的な思いを引き出すよう努めています。そのためにも、日頃から心にゆとりを持って穏やかな笑顔とトーンで接することを心がけています。



悠優かしま居宅介護支援事業所
介護支援専門員
山口（やまぐち） 真由美（まゆみ）さん





悠優かしま居宅介護支援事業所
介護支援専門員
河辺（かわべ） 佳奈子（かなこ）さん

支援のやりがいと心に残る言葉

在宅生活の改善がもたらす笑顔と感謝

施設勤務から居宅介護支援の業務に携わるようになり、ご家族様と直接お話しする機会が格段に増えました。手すりの設置をはじめとする環境整備をご提案した際、「日常の移動がとても楽になった」「取り付けて本当に良かった」といった感謝のお言葉を直接いただけることに、大きな喜びを感じています。デイサービスなどの活用により、利用者様が明るく前向きに変化されていく姿や、ご家族様の負担が軽減されていく過程に立ち会えることは、在宅生活を安全かつ自分らしく支える専門職としての大きなやりがいにつながっています。

「悠優かしま居宅介護支援事業所」の雰囲気と今後の目標

何でも相談できる風土と積み重ねる信頼

経験の浅いスタッフであっても遠慮なく質問や相談ができる、非常に風通しの良い雰囲気が魅力です。難易度の高いケースであっても、周囲の先輩方が親身になって知恵を出し合い、チーム全体で解決を目指す助け合いの風土が根付いています。こうした日頃からの緊密な情報共有と相互のフォロー体制が整っていることが、モチベーションの維持や不安なく利用者様の支援ができる理由の一つです。今後は、一度いただいたお話やご要望を正確に把握・記憶し、次回の訪問時にも的確に活かすことで、利用者様やご家族様から「相談して本当に良かった」と深く信頼される存在となることが目標です。

祝・永年勤続表彰！

ベテラン職員が語る職場の魅力

千寿会を長年支えてきたお二人にインタビュー。長く働き続けられる職場の魅力や心温まるエピソードなど、皆さんが今後もいきいきと活躍するためのヒントをお届けします。



法人本部（陽光園）事務員
吉成（よしなり） 眞美子（しみこ）さん
入職年：1994年（勤続32年）

千寿会の魅力と長く働く秘訣
穏やかな空気と心地よい距離感
穏やかな空気感が流れており、窮屈さがないところです。長く働き続ける秘訣は、周囲と明るくコミュニケーションを取りつつも、適度な距離感を保つことだと感じています。また、仕事だけでなく、帰宅後にテレビドラマを観るといった小さな楽しみを持ち、ストレスを解消することも大切です。わからないことがあれば一人で抱え込まず、周囲の方々に頼るよう心掛けてきました。

心に残る利用者様とのエピソード
「頑張れ」の温かなエール

若い頃の吉成さん

20年ほど前のことです。県の監査対応で遅くまで一人で作業をしており、思わず弱音をこぼしてしまったことがありました。そのとき、ショートステイの利用者様がそっと横に立ち、「頑張れ、頑張れ」と声をかけてくださったのです。一生懸命に取り組んでいれば見ていてくださる方がいるのだと気づかされた、今でも心に残る出来事です。

今後の目標
笑顔あふれる職場を目指して
最近は申請や報告書がデジタル化され、慣れない業務に苦戦することもありますが、周りの詳しい方に助けていただきながら日々精進しています。
今後の目標は、職員が明るく働ける環境づくりをお手伝いすること。職員が笑顔であれば、利用者様も自然と笑顔になります。悩みを抱えている方には積極的に声をかけ、一人で抱え込まずに先輩や同僚に頼ってもらえるような、温かいサポートを続けていきたいと考えています。



特別養護老人ホーム悠優かしま
施設長
山下（やました） 真也（しんや）さん
入職年：2012年（勤続14年）

千寿会の魅力
意見を率直に伝え合える風土
入職以来、仲間とともに居心地の良さを感じてきました。魅力は、程よい緊張感を保ちつつ、気兼ねなく意見を言える環境。現場の声を率直に発信でき、責任を伴うからこそ主体的に取り組むことができています。また、本部と離れていてもベテラン職員へ気軽に相談できる体制も心強く感じています。




心に残る利用者様とのエピソード
大切な場面を任される喜び
特に心に残っているのは、利用者様やご家族様と深く関わり、強い信頼関係を築けたことです。過去に、入居者のお孫さんの結婚式に入居者と一緒に参加させてもらったり、お正月に入居者宅で入居者と家族と一緒におせち料理を食べた事がありました。日々の支援に一生懸命取り組んだ結果、大事な場面を託してもらえたり、頼ってもらえたりすると実感し、大きな励みになりました。今後も期待に応え、頼られる存在でありたいと思っています。

今後の目標
職員全員で質の高いケアを
施設長就任2年目となり、拠点全体の運営安定が日々の目標です。利用者様に喜んでいただき満足度を高めることが、結果として良い運営に繋がります。そのためには職員全員が同じ意識を持ち、ケアの質を前向きに求めていく姿勢が欠かせません。現状に甘んじず、利用者様が安全で楽しく過ごせる施設づくりをチーム一丸で目指します。

「特別養護老人ホーム 悠優かしま」ってどんなところ？

自宅での生活の延長を目指す支援

「利用者様に安心して、その人らしく過ごしていただける支援を心がけています」と語るのは、特別養護老人ホーム悠優かしまのユニットリーダーを務める嶋田さん。
今回は、日々の業務での工夫やチームワークについてお話を伺いました。



特別養護老人ホーム悠優かしま
悠優かしま短期入所生活介護事業所
ユニットリーダー
嶋田（しまだ） 陽介（ようすけ）さん

「悠優かしま」ならではの強み
普段の暮らしの延長を目指して
利用者様一人ひとりの思いや生活習慣を大切にし、自宅での生活の延長として安心して過ごしていただけるよう支援しています。例えば、お話が好きな方にはグループの中心になっていただいたり、他のユニットへ遊びに行っていただいたりと、親しい方々との自然な交流を続けていただける環境を大切にしています。ショートステイをご利用の際も、普段から使い慣れたものを持ち込んでいただき、ご自宅に近い環境でお過ごしいただける点が私たちの強みです。

日々の業務での工夫
程よい距離感で温かい声がけを
ショートステイで、初めて利用される方は緊張されていることが多いため、過剰にかしこまらず、すぐに打ち解けられるような程よい距離感を大切にしています。マニュアルだけに頼るのではなく、利用者様一人ひとりの生活歴や情報を事前に確認した上で、その方に合った関わり方を職員間で共有しながら温かい声がけを行っています。

印象的なエピソード
日常の何気ないサポートが喜びに
特別なことではなく、日常の延長線上にあるサポートを大切にしています。例えば、お正月には近くの神社まで一緒にお散歩をしてお参りに行きました。普段はお一人での外出が難しい方々にも、このようなささやかな外出をとても喜んでいただけました。ショートステイ利用のご家族様から「何度も利用して安心してお任せできます」とのお言葉をいただくことも、日々の大きな励みになっています。

「悠優かしま」の雰囲気
職種の垣根を越えたチームワーク
私たちの施設には介護職だけでなく、看護師、理学療法士、栄養士、相談員など様々な専門職員が在籍しています。職種による隔たりはなく、全員が同じ目線で日々のケアに取り組むフラットな環境です。体調の変化など気になることがあればすぐに相談し合い、日々の情報共有を欠かしません。また、20代の外国籍の技能実習生から60代まで幅広い年代の職員が活躍しており、それぞれの経験や視点を活かしてチーム全体で利用者様を支えています。




「デイサービスセンター悠優かしま」ってどんなところ？



利用者様の「もう一つの家」を目指す支援

利用者様にとっての「もう1つの家」を目指し、心の距離を近づける工夫や、日々のレクリエーションで笑顔を生み出すデイサービスセンター悠優かしま。職員が作る明るい雰囲気が、安心と信頼の輪を広げています。



デイサービスセンター悠優かしま
理学療法士
谷田（やつだ） 和磨（かずま）さん

「デイサービスセンター悠優かしま」最大の強み

元気とパッションが溢れる環境

職員は30～40代の若手が中心で、元気とパッションに溢れた職場です。私自身は元々そこまで明るいタイプではなかったのですが、周りの雰囲気に引き上げられ、自然と明るく振る舞えるようになりました。勤続10年のベテランから入職1年未満の方までキャリアは様々ですが、職員間に壁はなく、レクリエーションのときなどは、みんなで利用者様と一緒に盛り上がっています。

心がけている工夫

心の距離を縮めるコミュニケーション

当法人の理念にもある、利用者様にとっての「気軽に我がままの言える自宅ではない我が家」を目指し、普段から心の距離を縮められるような関わり方を意識しています。やり取りを見聞きしたご家族様が不快に思われないよう、失礼にならないラインを見極めつつ、あえて少し砕けた、親しみやすい言葉遣いで接することで、利用者様からも気軽に話しかけていただけるようになりました。

印象的なエピソード

丁寧なサポートが生んだ前向きな変化

以前、デイサービスの利用に消極的だった利用者様のご入浴を担当したときの話です。浴槽に入る手順を丁寧にお伝えしながらサポートしたところ、「すんなり入れてよかった」と安心され、「おかげでここに来るのが楽しくなった」というお言葉をいただきました。この経験から、普段の何気ない声かけや接し方がいかに大切かを改めて実感。私だけでなく、他の職員たちの対応も良かったようで、チーム全体で利用者様のマイナスなイメージを払拭できたことを、とても嬉しく思いました。



チームワークで叶える！ 今後の目標

職場の人間関係は非常に良く、和気あいあいとした働きやすい環境です。これからもこの明るい雰囲気を大切にし、みんなで力を合わせて、利用者様に「ここに来るのが楽しみ」と思っていただけるような場所を作っていきたいと考えています。



「コミュニティハウス悠優かしま」ってどんなところ？



ケアマネジャーや看護職員、介護職員が連携し、いつも笑顔があふれるコミュニティハウス悠優かしま。日々の業務での工夫や、利用者様と向き合う中でのやりがい、そして今後の目標について、介護職員の三嶋さんに伺いました。



コミュニティハウス
悠優かしま
介護職員
三嶋（みしま） 茉莉（まり）さん

「コミュニティハウス悠優かしま」の強み

職種を超えた密な連携

一番の強みは、ケアマネジャー、介護職員、看護師の全職種がパワフルで明るく、前向きに協力し合える環境です。忙しい中でも、普段から細やかな連携を欠かしません。利用者様の些細な変化に気づいた際は、職種に関係なく、すぐに看護職員やケアマネジャーへ報告します。

介護をサポートする充実の設備

設備面では、車いすの方でも入浴できるリフトや、起き上がりを助ける「ギャッチアップベッド」を備え、生活をサポートする体制が整っています。また、リハビリ室を活用することで定期的に体を動かしていただいていることも当事業所の強み、特徴の一つです。

日々の業務における工夫

面会時のポジティブなご報告

ご家族様が面会に来られた際は、作業の手を止めて積極的にご挨拶するよう心がけてきました。その際は、「今日はご飯を食べられました」「笑顔が見られました」など、ポジティブなご報告を行い、喜んでいただけるよう努めています。ご家族様から、「いつも感謝しています」とお声がけいただくことも、大きな励みです。さらに、当施設では毎月、季節ごとの行事も開催してきました。夏祭りでのヨーヨー釣りやパフェづくりなど、利用者様自身が手を動かし、一緒に楽しめるよう工夫を凝らしています。





やりがいを感じる瞬間

声かけから生まれる笑顔

特に嬉しいのは、普段は誘導に応じていただけない利用者様が、こちらの声かけで動いてくださったときです。また、ふとした瞬間に笑顔を見せてくださったときも、大きな喜びを感じます。介護の仕事には、コミュニケーションが欠かせません。お話ししながら、少しずつ信頼関係を築いていく過程にやりがいを感じています。一人ひとりの状態に合わせながら、少しでも心地良く過ごしていただけるよう、職員一同工夫を重ねる毎日です。

今後の目標

さらに働きやすい職場環境を目指して

現在も職種ごとの壁がなく、互いに助け合いながら、とても良い状態で仕事ができていると感じています。その上で目標としているのは、ミーティングの場などで、それぞれの意見や考えをより深く出し合っていくこと。一人ひとりの思いを密に共有し合うことで、利用者様にとっても私たち職員にとっても、さらに良い環境づくりにつながると考えています。